

妻のトリセツ～理不尽な妻との上手な付き合い方

～家では絶対に「取り扱い注意」読まないでください～

* ベストセラー「夫婦脳」「恋愛脳」の脳科学者が教える

黒川伊保子編著 講談社+α新書

1959年長野県生まれ、人口知能研究者、脳科学コメンテーター、感性アナリスト、奈良女子大学理学部物理学科卒、コンピュータメーカーでAI(人工知能)開発に携わり能と言葉の研究を始める 1991年に全国の原子力発電所で稼働した“世界初”と言われた日本語対話型コンピュータを開発、又AI分析の手法を用いて世界初の語感分析法である「サブミナル・インプレッション導出法」を開発しマーケティングの世界に新境地を開発した感性分析の第一人者。

(はじめに) ～女性脳の仕組みを知って戦略を立てよう～

「妻が怖い」という夫が増えている、夫側から申し立てた離婚の動機「妻から精神的虐待」2017年司法統計では2000年度の6位から2位に急上昇、具体的にはいつもイライラしている、口調がキツイ、いきなりキレる、急に怒り出す、何をしても怒られる、口を利かない、無視する、夫の分だけ家事をしない、人格を否定するような言葉をぶつけてくる、ほとんどの夫にはその“怒り”の本当の意味が分からない、それは妻が望む夫の対応と夫が考える解決策が根本からずれているから、女性は感情に伴う記録を長期にわたって保存し、しかも「みずみずしく取り出す」事が得意な脳の持ち主、自分の周りにいる自分より力が強い者には特に危険回避の為にネガティブトリガーの方が発動し易い「夫にはひどく厳しく、子供やペットにはベタ甘い」が母性の正体、夫にとっては「たったこれだけの事」で、しかも10年も20年も前の出来事迄含めて一気に何十発もの弾丸が飛んでくる、**実はこれは絆を求める気持ちの強さゆえである「怒り」は「期待」の裏返し、夫一筋・家庭一筋の妻程つまり可愛い妻程豹変し夫一筋のうぶな妻程一生続く事になる**「夫」という役割をどうこなすかはビジネス戦略なのだ、男にとっては人生最大のプロジェクトかもしれない、プロの夫業に徹することで妻から放たれる弾を10発から5発に減らそうというのが本書の目的～何故ゼロを目指さないのかは後程～家庭という最大のプロジェクトを夫がコントロールし生き残る為の手解き書であり鍵はあなたが握っている、世の夫にとって家庭の居心地が少しでも良くなることを念じて。

{ 第一章 辛い「ネガティブトリガー」を作らない }

～妻に嫌な思いをさせる発言と行動を知っておこう～

- ① 何十年分もの類似記録を一気に展開する女性能～既にケリがついたはずの過去の失敗を、まるで今日起きたかのように語りだしなじる妻

② 人生最大のネガティブトリガーを作り出す周産期・授乳期、過去の体験記憶を臨場感たっぷりに想起し何十年分もの類似体験を一気に引き出す力は女性能が子育ての為に備えている標準装備、妊娠・出産と授乳期には特に怖い・辛い・ひどいといった危険を伴う体験記録は子供を守る為にとっさに発動する第一級重要情報で格段にパワーアップ、この時期の夫の無神経な発言や行動は一生残る辛い記憶・傷となって繰り返し持ち出され、いつまでも消えることはない。

- * 周産期・授乳期の妻は満身創痍～妊娠中・出産後・授乳期と女性ホルモンの量は目まぐるしく変化、妊娠すると栄養を送るため循環血流量が約 40%も増加更に胎児にドンドン鉄分を吸収され母体は貧血となる、栄養不足・睡眠不足で自分を自分でコントロールすることもままならない。
- * 女友達として接しよう～一日中小さくて清らかな赤ん坊と過ごしていると妻は夫の言動・存在そのものが乱暴でひどくガサツに見える。
- * 女の会話の目的は共感～女友達との会話は「そうそう！」「わかる・わかる！」と大げさに相槌を打っている、その内、友人の脈絡もない話に移る。
- * 女性能は他人の体験談を自分の知能に変える～共感欲求が非常に高く、それにより過剰なストレス信号が沈静化し悲しい・痛い・寂しい・惨め・辛い等のストレス軽減、逆に共感が得られないと一気にテンションが下がり免疫力も下がってしまう、共感他人の体験談を「とっさの知恵」に変え「女の無駄話」が子供達を危機から救い、明日の自分を救い、夫の将来の介護に役立つ女の会話に「無駄話」はない、男達が自分の身に起こったささやかな事・小さな愚痴程価値がある。
- * 共感のプレゼント大会に参加せよ～女の会話は日常のささやかな体験を相手にプレゼントし受けたら共感で返し「しばしの癒し」をプレゼントしお合う、男はどちらのプレゼントも出し惜しみする、男達は共感より問題解決こそがプレゼントと思って話の腰を折りいきなり問題を解決してしまう、かくて女達は「思いやがない」「私の話を聞いてくれない」「いきなり私を否定してくる」となる。
- * 大切なのは夫が共感してくれたという記憶～一日の出来事を「うんうん分かるよ」「ヒャーそりゃ大変だ」と頷き乍ら聞く・共感すること、共感のフリは男性の脳にとってはストレスだが～地雷を踏んで一生云われるよりずっとマシ。
- * 地雷を踏むセリフに気をつけよう～悪阻で苦しんでいる時に「お袋が悪阻は病気じゃないと言ってたぞ」「気持ちの持ちようだよ」「ご飯作らなくていいよ食べてくるから」出産直後に「あっという間だったな！」「楽なお産だったね」「凄い顔をしていたよ」出産後の授乳期に「今日一日何してたの？ご飯ないの？」家事・育児の大変さを愚痴られたとき「俺の方が大変」「手伝っているじゃないか」「一日中家にいるから出来るでしょ」夜中に赤ちゃんが泣き止まない時「君は昼間一緒に寝られるからいいじゃないか」夫のこれらの何気ない反応が命がけで子供を産み育てている妻を殺す一言だ！

* 挽回は穏やかな時間を狙うと効果的～テレビで出産シーンを観ている時「お産というのは男の想像を超える大変なものなんだね」としみじみ言って頭を下げる。

③ 話し合いはビジネスプレゼンのメソッドで～感性が真逆で相性が悪いと感じる夫婦程生殖相手としての相性は抜群、逆に好きな食べ物・映画・笑いのツボも一緒という夫婦は相手にイライラすることもなくまるで親友、その代わりセックスレスになり易い。

* 意見が違ったらゲインを提示しよう～多くの夫が気づかずいきなり否定形を使う、そんな時には イ、双方の提案に対してメリットとデメリットを挙げる ロ、実際に調べて検証 ハ、お互いに手に入れられるものを示す ニ、以上を踏まえて結論を出す 例えば「妻は長男を私立学校、夫は公立学校の例」

イ、夫婦で希望する私立と公立の小学校を見学し校長先生の話聞く・環境を見

ロ、実際に私立・公立に子供を通わせている人に話を聞く・公立の一番のメリットは近所に遊び友達がいる・デメリットは教育水準が低い

ハ、大人になって将来他の場所で暮らしていても帰省で集まれる小・中は近くの公立ニ、夫婦で公立小学校の周辺にある公園で多くの子が楽しそうに遊ぶ様子を見学～以上を踏まえて妻も公立を納得。

④ 妻を依怙鼻息すると実家ストレスが解消する～男には見えない 1 つに家庭内の女女問題、女性脳は3m 以内を舐め尽くすように感じて無意識の内に支配、その空間を思い通りに支配できないと不安と不快感でストレスが溜まる、**台所やリビングをミリ単位で認知し無意識のうちに完全制御しているので自分が置いたものを動かされたり動線を遮られると大きなストレス、時には夫さえ入るのを嫌う、嫁姑間だけでなく実の母娘でもバトルを繰り返すことも、嫁姑の結果問題は言葉一つで解消できることもある、しかし嫁からは言い出せない、母(姑)が言い出さないなら息子(夫)が言わなければ。**

* 母と娘にも女・女問題はある～男が取る道は唯一つ妻の味方をする。

* **娘の「自我リストラ」は父親の責任**～自我の強すぎる女は本当に生きにくい、自分の正論がこの世の正解の全てではない、そのことを深い愛情で知らしめるのは父親だけかも、娘がどんなに反発しても母親を大切にする父親を嫌うことはない。

* **息子の思春期に妻の心を取り戻そう**～成長しても息子は母親に基本的に優しい息子が妻に反抗した場合は「俺の大切な妻にそんな暴言は許さん」と毅然という、妻の心に響く一言があれば一生夫と寄り添っていけると言う妻は少なくない。

* **あなたは息子が目標にできる「行き先」になれるか**～男性脳は人間同士の位置関係、つまり序列に敏感、常に目的地を目指す、**妻から「家で一番偉いのはお父さん」と言われる父親がいると息子のモチベーションは上がり自我を確立していける。**

普段は何があっても妻の味方である、この一貫した姿勢が信頼を勝ち取り娘と息子の将来を幸せにする。

⑤ 「名もなき家事」が二人を分かっ

～H28年総務省の6歳未満の子供を持つ夫婦のデータ、夫の1日の家事関連平均時間83分に対して妻は454分、共働きで子供がいる夫婦の場合、夫46分・妻294分、妻側の離婚理由にこの不公平な感が大きく関わっている、例えば「夫がしている家事」の上位に来るゴミ捨ての手順は1、分別の仕方を理解し各々のゴミにあったゴミ箱を動線や見た目を考えて設置 2、ゴミ袋を分別の種類ごとに用意する 3、分別種類ごとの収集曜日を把握 4、分別してゴミを袋に入れる 5、不快なゴミが外側から見えないか確認 6、袋が破れないか、持ち手は汚れていないかチェック 7、空気が入らないよう、又抜きながらゴミ袋の口をしっかり結ぶ 8、ゴミ捨て場に持って行く 9、ゴミ箱が汚れていたら洗う 10、新しいゴミ袋をゴミ箱にセットする
大抵の夫は「8」のみと思っている、更に言えば4、の分別には生ごみ・可燃ゴミ・資源ごみ(ビン・缶・ペットボトル=蓋は別に集める・ラベルをはがす)新聞紙・雑誌・段ボール・牛乳パック・布等細かい分類が必要で、それを洗ったり、潰したり、縛ったりする作業も必要。

洗濯もしかり用途に合わせて洗剤を揃える・代物と色物を分ける、普通洗いのものとおしゃれ着洗いのモノを分ける、えり・袖口・靴下など汚れがひどい場合は洗濯機に入れる前に手洗いする、一つ一つ皺を伸ばして干す、色物は裏返して干す。

*名もなき家事が妻を追い詰めている・そこに夫の無神経な行動ややりっぱなしと発言は家事を増やし切りもない名もない家事にジワジワ追い詰められ絶望感に、さい悩まされる。

*妻が求めているのは夫のねぎらい～男性脳は空間認知をして危険察知することに神経信号を使っている為、女性脳に比べ行動文脈が短くついで常時紡ぎ続けの能力が低い、ついでのあるあれそれを云われると非常に大きなストレス「夫のプロ」を目指すなら「名もなき家事」の存在を知覚して自分のタスクにする事を申し出る、気づいてねぎらう、但し妻の反応に期待し過ぎは厳禁。

*実現可能なタスクを自分で決める。

○お米を切らさない～妻的には運ぶのに重くて大変 ○冷蔵庫の製水槽の水を切らさない ○コーヒーを切らさない ○トイレの掃除 ○ベランダの植木に水やり ○洗面所の鏡をきれいにキープ ○肉を焼く ○ソバをゆでる ○コーヒーを入れる ○寝る前に米を研いで炊飯器にかける ○我が家だけの名もない家事を見つけて引き受けたなら、それが最高!

*失敗はつきもの、可愛げでごまかそう～すっかり忘れて妻に指摘されても逆切れしない、「アーもうどうして、がっかり・・・」等の演出も効果的。

⑥ 妻の失敗は無邪気に指摘

～賞味期限切れの食品を見つけても「これまだ食べてもいい」

*妻の小言はセキュリティ問題と心得よう～大抵切れる前には「あなたってどうして？」が出始める、その理由を言うのはアマチュア夫のやること、

云われるなら收拾がつかなくなる前に「何度も嫌な思いをさせてゴメン」とスッパリ謝る、家庭は基本女のテリトリー「妻は無意識で家庭で起きるかもしれない事故を未然に防いでいる」と考えて妻のルールを守る。

⑦ 事件は大抵リビングで起きる～左右脳の連携がいい女性脳は直感力に優れ今感じていることが直ぐ言葉になる、子供のちょっとした顔色の変化も見逃さない。男性脳は遠くや全体・機構がよく見える代わりに目の前の観察力はいたって低い、妻が髪形を変えても口紅を変えても殆ど気が付かない、この問題の解決策は家の中で各々テリトリーを決め夫の部屋・妻の部屋と分担しそれぞれのテリトリーに口出ししないルールを作る。

⑧ 時間差の買い物で互いのストレスをなくす～直感で選びたい女、比較検討で選びたい男、妻より先に売り場についてじっくり商品を比較検討して候補を数点決めて妻に頼もしいアドバイスをする。

⑨ 夫が気づかない「妻を絶望させるセリフ」～言ってくれればやったのに＝夫には全く悪気はないので傷つけている自覚もなく繰り返す。

* 女性脳は「云わなくても察してほしい」察してなんぼの女性脳にとって「言ってくればやったのに」は察することを放棄した言葉であり「僕はあんたに何の関心もない、あなたを大切に思っていない」と同義語「気が付かなくてゴメン、僕がやるべきだったね」は時に愛を伝えることになる。

* 妻が絶望する夫のセリフ～1. だったら、やらなくていいよ 2. つまり、こういうことだろう＝余計なストレスが増す 3. おかずこれだけ＝たったこれだけしかないのに聞こえる 4. 今日何していたの＝家事も満足にできないのかに聞こえる 5. いいな君は 1 日子供と一緒に＝それが辛いと感じている妻もいる。

⑩ 心の通信簿を開通させよう～事実を肯定する時も・否定する時も、その前に妻の心根は肯定する、それが夫が知っておくべき「黄金のルール」「その気持ち分かる、私だったら同じことをしたと思う、でもそれは間違っているよ」と

* 「心」と「事実」女の会話は二回線～会話の感じ方 4 パターン～1. 心は肯定＝事実も肯定 2. 心は肯定＝事実も否定 3. 心は否定＝事実も肯定 4. 心は否定＝事実も否定、女性脳同士の会話では 3. と 4. は使わない、つまり事実は否定しても問題ないが、心＝気持ちを否定したら人間関係が成り立たない。

妻は「君を幸せにする」と誓った夫が「心を否定してくるとは夢にも思っていない」男性脳は基本的に事実と心を使い分けしないのでヒドク冷酷に感じられる。

(例)12 歳の息子を妻が叱り家出、深夜に帰宅・妻は胸が潰れる程心配、夫は妻に「君ってそういうところがあるよなあ・でも男の子は叱るのも必要・帰ってきたから良かったじゃないか」この言葉に打ちのめされ、すっかり自信を無くす。夫が使ったパターンは3. 心を否定・事実は肯定「アーそれは胸が痛かったろうね、無事帰ってきたから良かった」と妻を抱きしめるべきで正論を突き付ける必要はない。 P 5

- * 女性脳による「心」と「事実」の巧みな使い分け ~ファミリーレストランに入った女性3人、季節限定メニューのマンゴパフェを一人が見つけ3人とも旬の美味しさに話題が盛り上がり、それでも2人はアッサリ別メニューを注文、このパターンは2. 心は肯定=事実は否定。

「女性の部下に対しての例」一読して出来の悪い今の企画でも「いい着眼点だね、お！これも気になっていた」と発案した気持ちを受け止めた上「企画としてはまだまだひと頑張りしてご覧」と返すべき。

- * 心の通信線を開通してもらえない専業主婦の憂鬱~働く妻は男社会でもまれているのであきらめもつぐが専業主婦は夫が全てでストレスは半端でない。

- * 心と裏腹な妻の言葉を翻訳すると~「あっちへ行って！」貴方のせいでメチャクチャ傷ついた、ちゃんと謝って！慰めて！~「勝手にすれば」勝手にしたら許さない、私のいう事をちゃんと聞いて。~「自分でやるからいい」察してやってよ！察する気がないのは愛がない事ね。~「どうしてそうなの」理由なんて聞いていない、あなたの言動で私は傷ついているの。~「なんでもない」私怒っているんですけど！私泣いているんですけど！放っておく気？ ~「一人にして」この状況で本当に一人にしたら絶対に許さない。~「みんな私が悪いんだよね」えっ？それって私のせいなの？あなたのせいでしょ！ ~「やらなくてもいいよ」そんなに嫌そうにやるならもう結構、私は貴方の何倍も家事をしますけどね！~「理屈じゃないの」正論はもう沢山！「愛しているから君の云う通りでいい」って言いなさい。~「別れる」これは引けないの！あなたが謝って！

{ 第二章 ポジティブトリガーの作り方 }

~笑顔の妻が戻ってくる意外に簡単な方法~

- * ネガティブをポジティブに変える脳科学的テクニック~女性はネガティブな過去を何度も蒸し返す厄介な脳だが、素敵な思い出も同様何度も思い出す、大切にされた体験や、宝石のような言葉が1つあれば何時までも大切に持ち続ける可愛い脳でもあるポジティブトリガーを置く最大のポイントが結婚記念日だ、女性にとって記念日は記憶の芋ずるを引き出す気・満々の日なので、この日にネガティブトリガーかポジティブトリガーを引くかで妻の結婚生活に対する評価は正反対になるポイント1千倍デーと心得ようプラスであれマイナスであれ。
- * 楽しみは予告と反復を~先ず予告は1ヶ月前には伝えよう、それがプロセス指向の女性脳に絶大な効果をもたらす。
- * 女性は1回のデートで1ヶ月楽しめる~1・2ヶ月に1回のデートとチョット豪華な週末家ディナーを適度にスケジューリングするだけで機嫌よく過ごしてくれる！！

- * サプライズは逆効果になる事も～どんなに準備に手間暇をかけたとしても・サプライズも喜ばないのは妻の気持ちを考えないサプライズは時として特大のネガティブトリガーを作り出す
 (例) 予告なしの高級レストランでのディナーその場に相応しい服装が必要
- * 普通の日だからこそ効果絶大な言葉と言動～一度家を出れば妻の顔など思い浮かべもしない男性脳。家事・仕事をしていても可愛く思う相手の顔がフツと浮かぶ、今頃なにをしているかな、昼何を食べているかな、美味しそうな菓子を見て「買って帰ったら喜ぶかな」それが女性脳の愛。
- * 女性脳は大切な人を思う究極の依怙臆戻脳～女性**は自分の体調の変化を男性の何十倍も敏感に把握**、自分を大切にすることは種の保存に繋がり哺乳類のメスの最も大切な本能、**チヤホヤされたいのも同じ理由**、女性脳は自分と自分が大切に思う人のことを最重要視し、愛情と時間を注ぎたい究極の依怙臆戻脳、男性脳は自分より世界や宇宙、自分にも自分の身内にも関心が向かないのが男性脳、妻との関係改善には女性脳のこの特徴を逆手に取って利用しよう。
- * 感謝するより、分かっていると伝えよう！～君がいつもやってくれるそれが無くなったら僕は途方に暮れてしまうとアピールする(弁当・ぬか漬け)
- * チョット手間のかかる夫が実は愛おしい～脳にとって「私がいなければ駄目な男」や「俺がいなければ生きていけない女」程甘美な相手はいない、但し相互作用が生じなければ意味がない、自分の存在で相手が少しでも良い方へ変化したり感謝されることが重要。
- * 携帯電話を効果的に活用する
 ～コミュニケーションの手段としてメール機能やメッセージを使って自分の事実だけを伝えることで心の通信簿となる、雲の写真1枚でもOK、受け取った妻は「今この瞬間も君のことを思っていたよ」と翻訳「何処にいても君のことを思っているよ」と云う気持ちが伝われば成功。
- * お土産を買って家に帰ろう
 ～高価なものよりチョットした美味しい物を普通の何でもない日に渡す「記念日でもないのに心にかけてくれた」事が胸を打つ「わざわざ足を延ばして人気商品を並んで買った」とか「限定商品を予約して買った」等かなりグッとくる月に1～2度でかなりの好感度アップが期待できる。
- * 「定番の幸せ菓子」を作っておこう～喧嘩した時の仲直りにも使える～
 チョットした事からヘビーな喧嘩に発展することがある。妻が顔も見たくない等と云ったら一旦家を出る1～2時間して家に帰る際に二人が好きなお菓子がベスト、家に帰ったら「悲しい思いをさせてごめんね！(原因が何であれ)」と妻の傷ついた心に謝ってからお土産を渡す。
- * 幾つになっても愛の言葉が欲しい女性脳

～男性脳は空間認識力が高い、拡張感覚は趣味のバイクのメカや道具を自分の体の一部のように感じている男は妻を自分の体の一部のように感じて「愛しているよ」と妻に愛を伝えたりしない、拡張感覚の低い女性脳は一体感がないので言葉の「絆」を欲しがると愛の言葉「美味しい」「髪を切ってきたらいいね」等妻に愛の言葉をプレゼントしよう。

* 男性脳と女性脳では嬉しいと感じる誉め言葉に違いがある～男性脳は比較されて「貴方が一番」と云われると気持ちが良い、女性は「一緒にいることに意味がある、そんな女性は君だけだ」「君は私にとってオンリーワンの女だ」など唯一無二の言葉がハートに突き刺さる。

* タイミングを外すと努力も台無しになる～妻を誉めるときは仏頂面での妻には逆効果、本人が幸せな気持ちでいる時が鉄則。

* 見本は欧米の男たち、エスコートをルールにしよう

～一日に一度は「愛している」と云い、朝はキスして「行ってきます」レストランでは奥の席に座らせ・妻が座るのを待ってから座る、階段を降りるときは先に立って腕を支え、ドアは先に開けて待つ、重い荷物は持ち、君はきれいだと囁く日常的な言動だ、妻と歩くときは車道側を歩く。

* 言葉の飴玉を欲しがると女性脳～夫のことが大好きな妻は「私のことを好き？」「私がいなくて寂しい？」と同じ質問を繰り返す、答えは勿論「大好きだよ」「寂しいに決まっているよ」

* 変化球やカーブが来る前に直球で勝負しても～男にとって問題なのは定型の肯定が欲しいのに変化球で聞いてくる妻～喧嘩したり、不機嫌になったり、口をきかなくなる、しかし求められている答えは1つ「君のことが大好きだよ」「愛しているよ」それが言えなければ「ありがとう」でも十分。

* それでも別れない方がいい理由

～同居期間が20年以上の熟年離婚が増えている、厚生労働省発表1985年2万434組が2015年3万8641組とこの30年で2倍近くに、同居期間30年以上に至ってはこの30年で約4倍に増加、妻からの離婚理由「夫が家にいることがストレス」「性格の不一致」「会話がない」「価値観の違い」「義理親の介護問題」「家事に対する不満」など夫に見えにくい原因や理由で妻にとって夫の定年や子供の独立、親の介護等のキッカケで引きずり出された過去のネガティブトリガー総決算の結果。

* 「責務を果たす」と云う愛は女性脳には通じない～男性脳にとって愛の証は雨の日も風の日も二日酔いの朝も当たり前のように仕事に向かい、家に帰り稼ぎを渡す、それが男の「愛している」だ、ところが女は男の気持ちを勝手に探り男の思いもよらないことで「誠意がない」「心がない」と判断される。

* 夫を救う女性脳のリスクヘッジ能力

～妻がいた方がいい理由、先ず健康寿命「人口等研究」によると妻と離婚した男性は妻がいる場合と比べて **40 歳時での健康余命が約 10 年短くなる**、又東洋経済オンライン「なぜ離婚男性の病気死亡率が高いか」では既婚・未婚・死別・離別で比べた場合の死因と死亡率では病死・不慮の事故・自殺全てに於いて離婚男性がダントツに高い、特に糖尿病は妻がいる男性の 10 倍以上、肝疾患は 8 倍以上で離婚後の男性の生活サイクル・食生活の乱れ、アルコールへの依存が浮かんで上がる。内閣府の調査「心の支えとなる人」では日本人男性は 1 位に配偶者又はパートナーで 78、8% 2 位子供 48、3% を大きく上回る、日本人女性は 1 位が子供で 65% 2 位が配偶者或いはパートナーで 54%

*「口うるさい」のは一緒に暮らす気があるから～うるさいことこの上ないが妻がガミガミいうのは夫と長く一緒に暮らしたいから、長い文脈で物事を見る女性脳は 2 回・3 回と夫が同じ事を繰り返しているのが見える、そして将来ダメになっていく未来も見える「妻は男の守り人」なのだ。

*察することが愛だと思ふ女性脳「褒めて認めてもらいたい」「自分だけを特別扱いしてほしい」「時には愛の言葉や甘い・優しい言葉も欲しい」女性が拗ねたり、怒ったり、口うるさかったりする間は未だ夫に惚れている証拠、妻の為と思わず自分へのリスクヘッジの為に、妻の女性脳をセッセと慰撫しようではないか。

(おわりに) ～本当にいい夫の条件～

妻から放たれる弾を 10 発から 5 発に減らそうと云うのが「本書の目的」なぜゼロを目指さないのか・・・**実は脳科学的に「いい夫」とは時に妻の雷に打たれてくれる夫のことだから**、女性は日々生きているだけでストレスが溜まる脳なので、この溜まったストレスを“放電する先を探している”そんな時にままと夫が何か気に障る事をしてくれると気持ちよく放電できる。

いい夫とは「概ね優しくて頼りがいがあるが時に下手をして妻を逆上させる」そういう男に他ならない、逆上されても全てが夫の原因ではなく女は本当のところかなり理不尽なのである、夫ってこの世で一番腹が立つという女性はとても多い、さもありなん、それは夫が彼女の脳の中で最も高い場所に居るから最も期待し最も求めている相手だから。

私は改めて「この人がいなければ生きていけない」と思っている。

思いっきり放電出来て、手放しで泣いて甘えられる唯一無二の相手だから。

(完)